

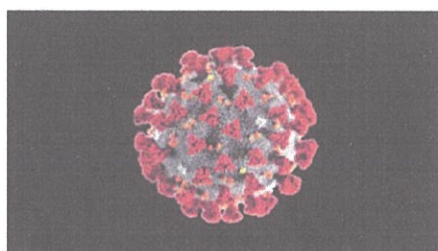
新型コロナウイルス感染症の流行を踏まえた
市民による救急蘇生法について(指針)

心肺蘇生の実施時、エアロゾルの発生

(ウイルスなどを含む微粒子が浮遊した空気)



全ての心停止傷病者に感染の疑いがある
(対応)



基本的な考え方

成人:人工呼吸は行わずに胸骨圧迫とAED

小児:人工呼吸の技術を身につけ、人工呼吸を
行う意思がある場合には実施する。

※子どもの心停止は、窒息や溺水など呼吸障
害を原因とすることが多く、人工呼吸の必要
性が比較的高い。

救急蘇生法の具体的手順

・ 反応を確認する ・ 呼吸を観察する
確認や観察の際に、傷病者の顔と救助者の顔があまり近づきすぎないようにする。

・ 胸骨圧迫を行う

エアロソルの飛散を防ぐため、胸骨圧迫を開始する前に、ハンカチやタオルなどがあれば傷病者の鼻と口にそれをかぶせるように変更する。マスクや衣服などでも代用できる。

胸骨圧迫30回と人工呼吸2回の組み合わせ

胸骨圧迫30回



人工呼吸2回

感染防止のため、講習では行わず気道確保して（頭部後屈顎先挙上法）、人工呼吸の仕草（**2回**）を実施する。

子どもに対しては・・・

講習を受けて人工呼吸の技術を身につけていて、人工呼吸を行う意思がある場合には、胸骨圧迫に人工呼吸を組み合わせる。

- * 感染防護具を必ず使用する。
- * 感染の危険などを考えて人工呼吸を行うことにためらいがある場合には、胸骨圧迫だけ続ける。

心肺蘇生の実施後

- * 救急隊の到着後に、傷病者を救急隊員に引き継いだあとは、速やかに石鹸と流水で手と顔を十分に洗う。
- * 傷病者の口と鼻に直接接触したハンカチやタオルなどは、直接接触しないようにして廃棄するのが望ましい。